

地区団体トップに展望を聞く

広島県の鉄骨業界を取り巻く環境は昨年
から安定した状況が続く。ただ人材確保の
面では建設業界の労働環境などが原因で厳
しい状況に変わりはない。世代交代や技能
伝承が十分に進まなければやがては鉄骨の
供給は不可能になる。協同組合広島県鉄構
工業会の山本泰徳理事長(ステントス社長)
に人手不足の背景や人材確保のための取り
組みなどを聞いた。

—2016年度を振り返って。
「年間を通して鉄骨需要、単価とも大きな変化はなかった。この2-3月も目立った動きはなく、実感が出てくるのは年度が変わってからになるだろう」
—17年度の見通しはどうか。
「4月以降、全国的に鉄骨需要は大幅に増

加する。広島についても夏以降は需要が上向



広島県鉄構工業会
山本泰徳理事長

新しい切り口で人材確保

くどみている。停滞が続いていた鉄骨単価も需要の増加とともに上昇していきだそう。しかし、鉄骨需要が増えなくても造る人がいない。鉄骨業界の人手不足は解消が難しく、今後はますます影響が強くなっていく。技能者の平均年齢は高くなる一方、人がいなくなれば、

は。建設業は土曜日に作業があるのが普通。こうしたこともあり、スーパーゼネコンですら、人が集まりにくいという現実がある。今の若い世代は企業を選ぶときの基準が完全週休2日制や年間の休日数が第一に来る。その次に福利厚生などが

て受け入れたが、あとで感想を聞くと、学生のニーズに合っていないことが分かった」

「工学系の学部での女性の増加や就職先の変化も影響しているだろう。10年前、建築専攻の学生は8割が男性、残り2割が女性だった。が、今はほぼ男女の比率が半々になっている

「中小企業で、ブルーカーの職種は長く慢性的に人手不足だ。何十年も前から対策について議論してきた。組合でも学校の訪問や、PR用のDVD配布などを行っている

「鉄骨業界でも人材確保のため、さまざまな取り組みをしてきた。一方、日本の若い人たちにも、技術の習得に長い時間が掛かることを理解してもらえない。せっかく入社してもらっても定着しないまま、辞めていくケースは少なくない。同じことを毎年繰り返してきたが、10年間やって一人も残っていないという企業もある。しかし続けなければ、やがて行き詰るの目に見えており、成果がなくとも続けなくてはいけないというジレンマが付きまとう」

「新たな取り組みが必要になっている。今までのやり方だけでは限界が来ている。今年度は新しい切り口で人材確保に向けて取り組みを始める方

針だ」

—17年度に組合で挑戦したいことは。
「全国鉄構工業協会が来年度、技術委員会で研究テーマを募集し、最大3年間、補助金を出して研究を助成する事業を始める。当然組合でもチャレンジすることを決め、現在、課題の検討を進めている。今年中にテーマを決めて申請し、実際に動きたすのは18年度になる予定だ」

—全国的に厚板の供給がタイト化しているが、広島での影響は。
「厚板の入荷が悪くなっている。足元はまだまだ需要が伸びていないため、影響は限定的だが今後、需要が増えてくるとさらに影響が強くなっていくのではないかと懸念している」(月森 七海)

行く着くところは自主廃業ということになる。今後、経営が安定しているも、人材不足による廃業という道を選ぶ企業が増えるだろう。いまは利益を出せる企業も多いが、再び不景気が訪れば、倒産廃業はさらに増えるかもしれない」

—人手不足の背景

「当社(ステントス)も昨年の夏に、学生の声を直接聞くために、インターシップを初め

て、就職先も昔は設計事務所か、ゼネコンへ入る学生が多かった。いまや女性の学生の多くはハウスメーカーを選ぶ。また行政の営繕など、公務員志望も増えている。そうした状況の中で、中小企業の多い鉄骨業界に飛び込む若者が増えるという

のは現実には難しい」

「彼らはやがて自国に戻